

(別紙1)

## 工 事 起 工(変更) 設 計 書

	理事長	常務理事	事務局長	副部長	施設管理監	総務部員	設計者
決裁							

施工年度	令和 7 年度		
工 事 名	山口県国際総合センター屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事		
工 事 場 所	下関市豊前田町三丁目3番1号 地内		
予 定 工 期	令和 8 年 月 日 から 令和 8 年 8 月 31 日 まで ( 日間)		
執 行 方 法	請 負	一般競争入札	地方自治法施行令第167条第6号
		随 意 契 約	地方自治法施行令第167条の2第1項第2号

	予 算 額	設 計 額 (消費税を含む)	請 負 額 (消費税を含む)	備 考
起 工	円	円	円	
変更(第 回)				
変更(第 回)				
指 示 事 項				

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	山口県国際総合センター屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事						工期:7か月
	(直接工事費)						
A-2	電気設備工事		1.0	式			
	計						
B-2	共通仮設費		1.0	式			
C-2	現場管理費		1.0	式			
D	一般管理費等		1.0	式			
	計						
	合 計 ( 工 事 価 格 )						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	消 費 税 等 相 当 額		1.0	式			
	総 合 計 ( 工 事 費 )						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
A-2	電気設備工事						
1	電灯設備	電灯分岐	1.0	式			
		コンセント分岐	1.0	式			
2	動力設備	動力幹線	1.0	式			
		動力分岐	1.0	式			
3	中央監視制御設備		1.0	式			
4	発生材積込・運搬・処分		1.0	式			
	計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	電灯設備	電灯分岐					
	電灯分岐						
	だんだんベンチ	1	1.0	式			
	だんだんベンチ	2-①	1.0	式			
	だんだんベンチ	2-②	1.0	式			
	照明電源盤1		1.0	面			
	照明電源盤2		1.0	面			
	電線	IE 2.0 管内	80.0	m			
	電線	IE 2.0 PF管内	33.0	m			
	ケーブル	EEF2.0-2C 管内	65.0	m			
	ケーブル	EEF2.0-2C ラック上	15.0	m			
	ケーブル	EEF2.0-3C 管内	133.0	m			
	ケーブル	EEF2.0-3C ラック上	22.0	m			
	ケーブル	CE3.5-3C PF管内	71.0	m			
	電線管	PF28 露出	71.0	m			

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	電線管	E25 露出	8.0	m			
	プルボックス	200×200×200	4.0	個			
	プルボックス	300×300×200	3.0	個			
	ボンディング	E25	4.0	箇所			
	はつり補修	38φ	4.0	箇所			
	撤去		1.0	式			
	再取付		1.0	式			
	計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	電灯設備	コンセント分岐					
	防水コンセント	2P15AE×2抜止形 スマートカバー付	2.0	個			
	ケーブル	EEF2.0-3C 管内	91.0	m			
	電線管	E19 露出	19.0	m			
	丸型露出ボックス	E19・1方出	2.0	個			
	ボンディング	E19	2.0	箇所			
	計						

名 称		規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	動力設備	動力幹線					
	動力幹線						
	撤去		1.0	式			
	計						



名	称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	動力設備	動力分岐					
	動力盤改修	S-H01-1	1.0	面			
	動力盤改修	S-H02-1	1.0	面			
	動力盤改修	S-H03-1	1.0	面			
	撤去		1.0	式			
	計						

名	称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	中央監視制御設備						
	既設中央監視改修		1.0	式			
	計						

名	称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	発生材積込・運搬・処分						
	(発生材積込み)						
	発生材積込み	金属くず	0.1	m3			
	発生材積込み	ガラスくず	0.1	m3			
	発生材積込み	銅	130.1	kg			
	(発生材運搬)						
	発生材運搬	金属くず	1.0	回			
	発生材運搬	ガラスくず	1.0	回			
	発生材運搬	銅	1.0	回			

名	称	規 格・寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	(発生材処分)						
	発生材処分	電気設備工程 0.02t 金属くず	0.1	t			
	発生材処分	電気設備工程 0.01m <sup>3</sup> ガラスくず	0.1	t			
	スクラップ°	電気設備工程 銅 1号銅線	92.2	kg			
	スクラップ°	電気設備工程 銅 2号銅線	37.8	kg			
	産業廃棄物税		0.2	t			
	計						

# 山口県国際総合センター 屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事 実施設計図

2025年 12月  
株式会社 N T T ファシリティーズ



[illegible]





○ 1.7.3 保金に関する 資料	【置換】 (1) 保金に関する資料は、(ア)～(カ)によるほか次による。 【追加】 (1) (キ) 電子媒体のデータ提出方法は下記による。 ○ 保金マニュアル ○ 長期修繕計画書 ○ 機器台帳 (書式は監理者の指示による) ○ 課金用・管理用メーターに関する資料 ○ その他 ( ) (2) 提出部数は、下表による。	● 2.1.6【追加】 保護設備	本工事の施工にあたり、付近住民・隣接建物・工作物・通行人等に対して損害を与えないように、 必要な保護設備を計画し、 監理者及び各関係者に承認を得て実施すること。 万が一損害を与えた時は、速やかに応急処置や復旧工事等を行い、これに要した費用は受注者の負担とする。	機 材 部 品 表	● 1.1.1 電線類	第1章 機 材 第1節 電線類 (第 6 編にも適用する) 【追加】 (2) 使用する電線種別は以下による。 ● EM電線、EMケーブル ○ 一般電線、一般ケーブル ※ UTPケーブルは、用途に応じ色分けすること。 ※ EM電線、EMケーブル適用の場合は次による。 1) 接地線は、600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線 (EM－IE ) とする。 2) 図中に一般電線・ケーブルの記載がある場合は、それぞれ EM電線、EMケーブルと読み替える。	● 1.3.1 配線器具	第3節 配線器具 【追加】 (2) 配線器具は (1) によるほか、次による。 (ア) コンセント仕様 ・特記がない限り、定格 125V15A 2 個用接地極付とする。 ・天井内及び天井面取り付けのコンセントは定格 125V15A ツイストロック又は抜け止め型とする。 ・屋外及び厨下などの水気のある場所に取付けられる器具は、防水型 ( 防雨又は防湿構造のもの ) とする。 (イ) コンセントの色別 ( OA タップにも適用する ) ○ コンセントの色は電線種類、用途により下記のとおりとする。 AC : ● 白 ○ 指定色 GC : ● 赤 ○ グレー ○ 指定色 太陽光自立回路: ●緑 (通電ランプ付) UPS : ○ 緑 ○ グレー ● 指定色 (ウ) スイッチ ○ 一般形 ● ワイドハンドル形 ○ 設計図による (エ) プレート ● 新金属製 (耐食アルミ合金製) ○ 新金属製 (ビス無し) ● 対象範囲 ( 設備機械室・EPS等 ) ● 合成樹脂製 (パナソニック コスモシリーズ相当) ● 対象範囲 ( 会議室・打合せ室・事務室・廊下 ) ○ パナソニック (パナソニック グレーシアシリーズ相当) ○ 対象範囲 ( ) ○ 設計図による (オ) フロアコンセントの種類 ○ アップコンセント ( ○ 鋳金製 ○ アルミニウム製) ○ 上下可動型コンセント ( ○ 鋳金製 ○ アルミニウム製) ○ 埋込み型インナーコンセント ○ ○Aフロア用アップコンセント ● ○Aフロア用インナーコンセント (3) ● プレート及びスイッチ、コンセント等の組み合わせ見本を提出すること。 (4) 断熱材資料箇所におけるインサートは、断熱インサートを使用とする。		
	● 1.7.4【追加】 予備品	予備品はメーカー標準及び設計図書に記載されたものとし、設備種類・システム毎に整理のうえ、リストにまとめ、適切な収容箱等に収め引き渡すこと。保管場所は監理者の指示による。	○ 2.2.2【追加】 試験		試験の要否と試験深さは下記による。なお、範囲は設計図による。 ○ する 深さ mm ○ しない	● 1.2.1 電線類			第2節 電線保護物類 【追加】 (2) 使用区分 屋内 ● ねじなし電線管 ○ 薄鋼電線管 屋外 ● 厚鋼電線管 (断熱内含む) ○ ポリエチレン被覆鋼管 ○ その他 (3) 屋外、トレンチ、ピットの電線保護物の支持材 (吊り金物、架台) 及び固定材 (ボルト・ナット) は次による。 ● 溶融亜鉛メッキ ○ ステンレス製	○ 1.4.2 構造一般
	● 2.1.2【追加】 工事用水・電力	構内既存施設の工事用水・工事電力の使用の可否は下記による。 (ア) 工事用水 ○ 利用不可 ● 利用可 ( ○ 有償 ● 無償 ) (イ) 工事電力 ○ 利用不可 ● 利用可 ( ○ 有償 ● 無償 )	○ 2.10.1 一般事項		構内の掘削による残土処分は以下によるものとし、その費用は請負費に含む。 ○ 現場説明書による。 ○ 構内の監理者指示場所に敷き均しとする。 ○ 構内の監理者指示場所に埋積する。 ○ 構外へ搬出する。(約 km)	● 1.2.2 PF 管、印管 及び附属品			【追加】 (3) 使用区分 ● P F 管 (堀べい部、コンクリート埋設部) ○ C D 管 (コンクリート埋設部)	○ 1.7.3、1.9.3 1.10.3、1.11.3 1.12.3、1.14.3 キャビネット 1.17.1 接地端子箱
	○ 2.1.2【追加】 交通整理員	交通整理員は下記による。 ○ 建築特記による	● 2.11.1【追加】 施工調査		改修標準仕様書第1編1.5.1 及び 1.5.2によるほか、下記による。 (1) 事前調査項目 ○ 電力引込管路 ○ 通信引込管路 ● その他 ( エスカレーター用管路 ) (2) 当該設備調査方法 ○ 現地実測 ○ その他 ( ) (3) 地中管路の掘削にあたっては、電気はもとより機械設備の配管についても確認を行い実施すること。存在が特定される場合は手廻りなどにより既設配管を傷めないよう配慮すること。	● 1.2.5 金属網及び附属品			【追加】 (2) 2種金属網びの吊ボルト用吊り金具は、引掛け形の金具 (ネグロス電工製 吊ボルト用レースウェイ吊り金具 DPY1 相当品) を使用すること。	○ 1.7.4、1.9.4 1.10.4、1.11.4 1.12.4、1.14.4 導電部
	○ 2.1.4【追加】 工事前仮設物	工事前仮設物は構内に作ることが、 ○ できる ○ できない	● 2.11.2【追加】 はつり		改修標準仕様書第1編1.5.1 及び 1.5.2によるほか、下記による。 (1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、設計図に特記のない限り、ダイヤモンドカッターによるものとする。 (2) 穴あけ箇所の非破壊検査による埋設物の事前調査 ( ● 要 ○ 否 ) 非破壊検査実施後、埋設物と穴あけ箇所との位置関係を明記した「埋設物調査報告書」(任意様式)を取り纏め、監理者へ報告を行う。 支障のある埋設物に対する対応については監理者及び関係者と協議を行い、貫通箇所の変更等が必要な場合は、変更案を書面によって監理者に提出し、承認を得た後工事に着手するものとする。	● 1.2.6 プルボックス			【追加】 (4) プルボックスの材質 ○ 鋼板製 ● ステンレス鋼板製 ○ 合成樹脂製 (5) 屋外プルボックスの材質 ○ 鋼板製 (溶融亜鉛めっき) ● ステンレス鋼板製 (水勾配付) ○ 合成樹脂製 (6) 露出部金属製プルボックスの塗装 (機械室、EPSを除く) ● 指定色 ○ 不要 (7) プルボックスのふたの止めねじ 長さ 200mm を超える場合は、脱脂防止ねじを使用する。 (8) 吊金物 プルボックスと同仕様とする。	○ 1.7.6、1.9.6 1.10.6、1.11.6 器具部
	○ 2.1.5【追加】 監理者事務所	監理者事務所は、 ○ 設置する (建築特記による) ● 設置しない (ア) 規格等 ○ 10 ㎡ (1 号程度) ○ 20 ㎡ (2 号程度) ○ 35 ㎡ (3 号程度) ○ 65 ㎡ (4 号程度) ○ 100 ㎡ (5 号程度) 上記規格の他に ○ 会議室 ( 受注者と共用で可、20㎡程度) ○ 更衣室 ( ○ 男女兼用 ○ 男女別) ○ WC ( ○ 男女兼用 ○ 男女別 ) 監理者事務所等の維持保全及び美観保持の費用は、受注者の負担とする。 (イ) 監理者事務所等の維持保全及び美観保持の費用は、受注者の負担とする。	● 2.11.3【追加】 撤去工事		改修標準仕様書第1編1.8.1 から 1.8.6によるほか、以下による。 撤去工事の実施にあたっては以下に留意する。 (1) 設計図に表示してある撤去配管・配線については、撤去着手前に使用/未使用の確認のうえ、その旨の表示を行い監理者に報告する。なお、不要配管の撤去に施工上問題がある場合、隠蔽部分で状況確認が出来ない場合は速やかに監理者に報告を行い、監理者の指示を仰ぐ。 (2) 撤去指示の有無によらず、工事中に不明な埋設物・配管・配線類及び地中埋設物 (配管、配線含む) を発見した場合は作業を中止し、速やかに監理者に報告を行い、対処方法等について監理者の指示を仰ぐ。 (3) 有害物質を含む撤去 (ア) 分析によるアスベスト含有調査は下記による。 ○ 行う ○ 行わない (イ) 分析によるアスベスト含有の調査方法は下記による。 ○ JIS A 1481-2・3 ○ その他 ( ) (ウ) 設計時の調査により確認したアスベスト含有の恐れのある建材は以下による。 なお、下記表は設計時の調査により確認した内容であり、アスベスト含有の恐れのある建材の全数を示すものではないため、施工調査により確認する。 ( 一般名称 対象箇所 (階・室・部位) 図面番番 ( ) ) (エ) 処分は下記による。 ○ 埋設処分 ○ 中間処理品	○ 1.2.7 金属ダクト			【追加】 (10) 金属ダクトのふたの止めねじ 長さ 200mm を超える場合は、脱脂防止ねじを使用する。	
		(ウ) 監理者事務所には、次の○A環境を整備する。( )内は数量を示す。 上記に要する費用は、維持運営費を含め一切受注者の負担とする。	● 2.11.3【追加】 撤去工事		改修標準仕様書第1編1.8.1 から 1.8.6によるほか、以下による。 撤去工事の実施にあたっては以下に留意する。 (1) 設計図に表示してある撤去配管・配線については、撤去着手前に使用/未使用の確認のうえ、その旨の表示を行い監理者に報告する。なお、不要配管の撤去に施工上問題がある場合、隠蔽部分で状況確認が出来ない場合は速やかに監理者に報告を行い、監理者の指示を仰ぐ。 (2) 撤去指示の有無によらず、工事中に不明な埋設物・配管・配線類及び地中埋設物 (配管、配線含む) を発見した場合は作業を中止し、速やかに監理者に報告を行い、対処方法等について監理者の指示を仰ぐ。 (3) 有害物質を含む撤去 (ア) 分析によるアスベスト含有調査は下記による。 ○ 行う ○ 行わない (イ) 分析によるアスベスト含有の調査方法は下記による。 ○ JIS A 1481-2・3 ○ その他 ( ) (ウ) 設計時の調査により確認したアスベスト含有の恐れのある建材は以下による。 なお、下記表は設計時の調査により確認した内容であり、アスベスト含有の恐れのある建材の全数を示すものではないため、施工調査により確認する。 ( 一般名称 対象箇所 (階・室・部位) 図面番番 ( ) ) (エ) 処分は下記による。 ○ 埋設処分 ○ 中間処理品	○ 1.2.8 金属トラフ			【追加】 (11) 金属ダクトのふたの止めねじ 長さ 200mm を超える場合は、脱脂防止ねじを使用する。	
		○ 什器 ○ 机 ( ) ○ 椅子 ( ) ○ 会議テーブル ( ) ○ 書棚 ( ) ○ 見本棚 ( ) ○ 更衣ロッカー ( ) ○ 応接セット ( ) ○ 洗面設備 ( ) ○ シンク ( ) ○ 白板 ( ) ○ 図面掛け ( ) ○ 電気製品 ○ 冷蔵庫 ( ) ○ 電子レンジ ( ) ○ 湯沸器 ( ) ○ 時計 ( ) ○ 工事前 ○ ゴム長靴 ( ) ○ 雨カッパ ( ) ○ 塵埃防止用具 (○ 塵ペルト型 ○フルハーネス型) ○ 懐中電灯 ( ) ○ ヘルメット ( ) ○ 検査道具一式 ( ) ○ 温度計 ( ) ○ 事務用品 ○ 筆記用具 ○ ○A用紙 (適宜補充) ○ ファイル (適宜補充) ○ その他 ○ 消火器	● 2.11.3【追加】 撤去工事		改修標準仕様書第1編1.8.1 から 1.8.6によるほか、以下による。 撤去工事の実施にあたっては以下に留意する。 (1) 設計図に表示してある撤去配管・配線については、撤去着手前に使用/未使用の確認のうえ、その旨の表示を行い監理者に報告する。なお、不要配管の撤去に施工上問題がある場合、隠蔽部分で状況確認が出来ない場合は速やかに監理者に報告を行い、監理者の指示を仰ぐ。 (2) 撤去指示の有無によらず、工事中に不明な埋設物・配管・配線類及び地中埋設物 (配管、配線含む) を発見した場合は作業を中止し、速やかに監理者に報告を行い、対処方法等について監理者の指示を仰ぐ。 (3) 有害物質を含む撤去 (ア) 分析によるアスベスト含有調査は下記による。 ○ 行う ○ 行わない (イ) 分析によるアスベスト含有の調査方法は下記による。 ○ JIS A 1481-2・3 ○ その他 ( ) (ウ) 設計時の調査により確認したアスベスト含有の恐れのある建材は以下による。 なお、下記表は設計時の調査により確認した内容であり、アスベスト含有の恐れのある建材の全数を示すものではないため、施工調査により確認する。 ( 一般名称 対象箇所 (階・室・部位) 図面番番 ( ) ) (エ) 処分は下記による。 ○ 埋設処分 ○ 中間処理品	○ 1.2.9 ケーブルラック			【追加】 (9) ケーブルラックの種類 屋内 : ○ 鋼板製 (右記以外) ○ アルミ製 ○ ( ) 屋外・ピット: ○ 鋼板製 (溶融亜鉛めっき同等品) ○ アルミ製 ○ ステンレス製 (10) 鋼桁 ラック幅 400mm以上の場合は 100mm とする。 (11) ケーブルラックの金物・支持材等の材質はケーブルラックと同仕様とする。 (12) ケーブルラックの端部には、端末保護キャップ (ネグロス電工 SBC 相当品) を取り付けること。 (13) 不特定多数が入り出す部分を通過する非常電源回路等の耐火電線等 (耐火電線と一般電線の混在したものを含む) をケーブルラックに露出して敷設する場合、ケーブルラック下部を耐火ボードで遮蔽する、もしくはケーブルに遮蔽防止剤を塗布すること。 (14) 屋内用ケーブルラック保護カバー 屋内の露出部分は、床より 1.8m までは保護カバー (鋼製メラミン焼き付け 1.2mm厚以上) をケーブルラックの上下両面に取り付ける。ただし、電気室、EPS は除く。 ※ 高圧ケーブル用のケーブルラックは全域にわたり上下とも鋼板製の保護カバーを取り付ける。 (15) 屋外用ケーブルラック保護カバー 屋外のケーブルラックはすべて保護カバーを設ける。その材質はケーブルラックと同仕様とする。 上部: ○ 屋根型等水勾配付き ○ ノンスリップ仕上げ ○ 歩行可能な耐重量 下部: ○ 上部と同材質 ○ ネットロ網 ※ 保守道路として想定される部分の上部カバーは歩行可能な耐重量を有し、ノンスリップ仕上げとする。 ※ 高圧ケーブルの保護カバーは上下とも鋼板製とする。 (16) 原則として同一建物内ではボンド工法とノンボンド工法を混在して施工しないこと。やむを得ず混在して施工が必要な場合は、監理者と協議し、承認を得ること。	
		○ パソコン ( ) 機 種 ○ 監理者の指示による ○ その他 ( ) ○ S ○ Windows10 ○ 監理者の指示による ソフト ○ Word ○ Excel ○ PowerPoint ○ AutoCAD ○ その他 ( ) ※ 各種最新版とする。 共 有 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 ○ インターネット回線 ( ) 回 線 ○ 光ケーブル回線 (wī-ふりゅた) 種 類 ○ ADSL回線 (プロバイダー契約は受注者負担) ○ レザージャケット ( ) 機 種 ○ 監理者の指示による ○ その他 ( ) 印 刷 ○ カラー ○ 白黒 給 紙 ○ A3・A4対応 ○ A4対応 共 有 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 ○ コピー機 ( ) 機 種 ○ 監理者の指示による ○ その他 ( ) 機 能 ○ 自動原稿送り ○ 自動給紙 ○ 自動仕分け ○ 両面コピー ○ その他 ( ) 印 刷 ○ カラー ○ 白黒 共 有 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 ○ 電話 ( ) 共 有 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 OFAX ( ) 回 線 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 ○ 複合機 ( ) 機 種 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有 機 能 ○ FAX ○ コピー ○ スキャナ ○ 自動給紙 ○ 自動原稿送り ○ 自動仕分け ○ 両面コピー ○ その他 ( ) 給 紙 ○ A3・A4対応 ○ A4対応 共 有 ○ 監理者専用 ○ 受注者と共有	● 2.11.4【追加】 壁貫通部等の補修		配管・配線が、コンクリートやブロック壁、主要な間仕切り等を貫通する場合は、貫通孔と配管配線の隙間をモルタル又は耐火バテ等適切な不燃材料で完全に補修する。また、防火区画、114条区画に使用する鋼板ボックス及びP F 管の貫通穴は、国土交通省大臣認定工法により確実に閉塞すること。					
			● 2.11.5【追加】 停電時期、工法等		電気設備の改修のため、在来設備の全部もしくは一部を停止する必要がある場合は、あらかじめその時期、工法、仮設計画等を監理者と協議し、施工要領書にまとめ提出する。また、事前に建物監理者と打ち合わせを行ったうえで作業を行うものとし、施設の運営に支障をきたさないよう留意する。					

NTTファシリティーズ	株式会社 N T Tファシリティーズ 一級建築士事務所 中国支店 広島県知事登録 2 2 ( 1 ) 第 2 4 0 4 号	一級建築士登録 第 2 7 9 9 3 5 号 約村 真之	担当 岩坂 優一	特記	工事名 山口県国際総合センター屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事	図面名 特記仕様書 (4)	図面番号 E-特4	区分 電気
	建築設備士登録 第 19F1-0061LJ 号 土岐 伸治		管理番号 4JS120KJ1	縮尺 A1: — A3: —		年月 2025年12月		





機器凡例

記号	名称	適用	取付高（特記無）	備考
電灯分岐設備				
	だんだんベンチ照明電源盤			仕様は結線図参照
	分電盤			既設
	動力盤			既設
	フットライト	F D L 1 3 W 壁埋込型 1 9 4 x 2 7 0 1 0 0 D		既設
	だんだんベンチ間接照明	テーブルライト		間接照明仕様参照
コンセント分岐設備				
	防水コンセント	壁付 2 P 1 5 A E 付 x 2 抜止形 スマート カバー付（簡易鍵付）	F L + 3 0 0	
		スマート カバー付（簡易鍵付）		
		パナソニック WK 4 7 0 2 Q 相当品		

配線凡例

1） 図中特記なき配管配線サイズは、下記による。					
電灯分岐設備	屋内(隠蔽)	屋内	屋内(露出立下げ)	屋外	
2 F 3	EM - E E F 2 . 0 - 3 C	天井内ころがし 保護管	P F 1 6	E 1 9	MMA
	EM - I E 2 . 0 x 3 (既設 1 6)				
	EM - I E 2 . 0 x 4 (既設 1 6)				
	EM - I E 2 . 0 x 5 (既設 2 2)				
	EM - I E 2 . 0 x 6 (既設 2 2)				
	EM - I E 2 . 0 x 7 (既設 2 2)				
2） 防火区画部分は区画貫通処理材（国土交通大臣認定品）を使用の上処理する。					
3） 配線露出部分は保護すること。					

注記

1） 太線は本工事、細線及び破線もしくは《 》は別途工事もしくは既設を示す。
2） 以下機器は、納入仕様書を準備し手配前に監理者の承諾を得ること。 照明器具、照明制御機器、コンセント、盤
3） 工事着手前に各設備の総合図（平面図）を作成し監理者の承諾を得ること。
4） 分電盤改造は、盤改造図を事前に監理者へ提出し承諾を得ること。
5） P ・ B O X 蓋へ入線した配線の設備種別をテブラ表示すること。
6） 特記無きケ・ブル引下げ箇所は露出部は1種金属線び（メタルモール）又は金属管、インベイ部はP F 管等にて保護の事。
7） E x p . J 部分ではフレキ配管に収め階高の1 / 2 0 0 以上の変位に耐えうる対策を施すこと。
8） スイッチプレートは特記なき場合、原則新金属製としビスが露出しないもの（Panasonic製2型相当品）を使用すること。
9） 工事で発生する部分停電作業は事前に仮電源救済の必要有無を確認し必要の場合は仮設発電機にて電源救済すること。
1 0 ） フル2線のスケジュール変更とグループ変更を行うこと。

共通凡例

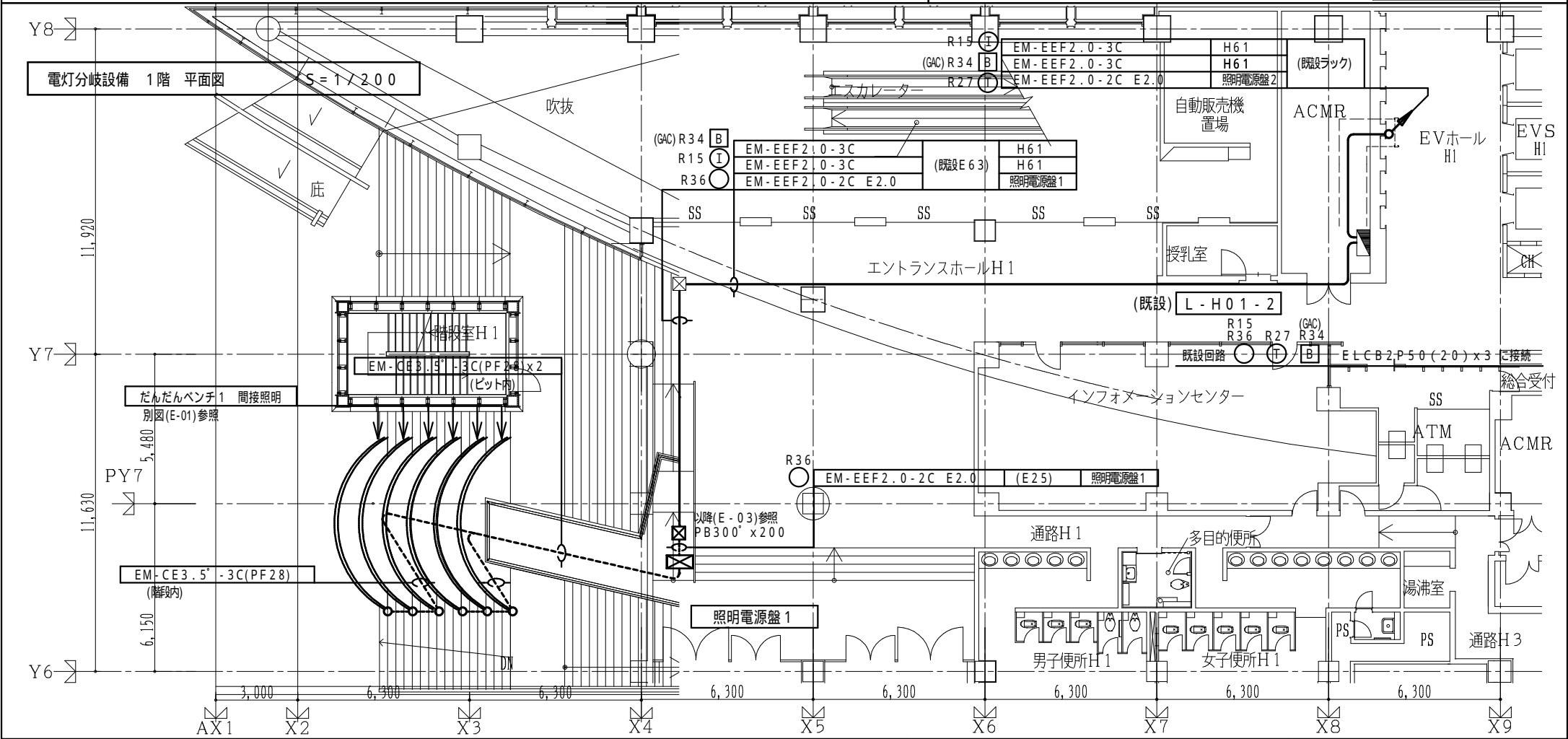
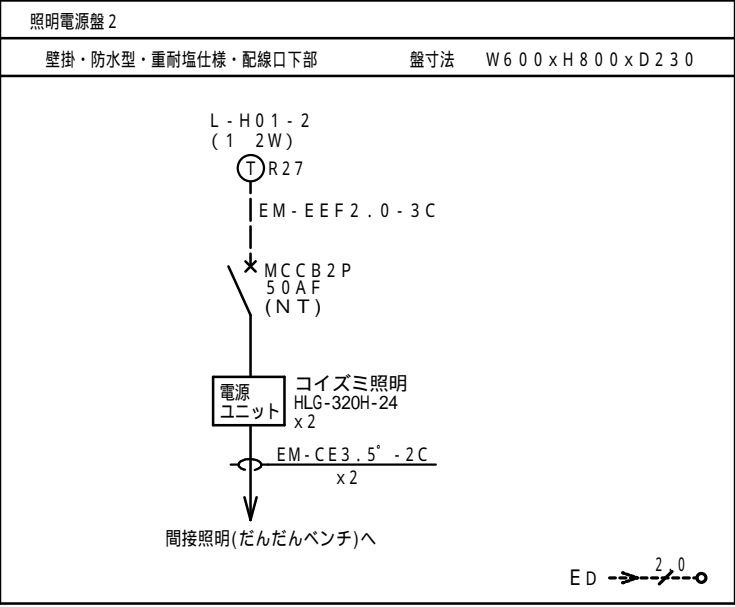
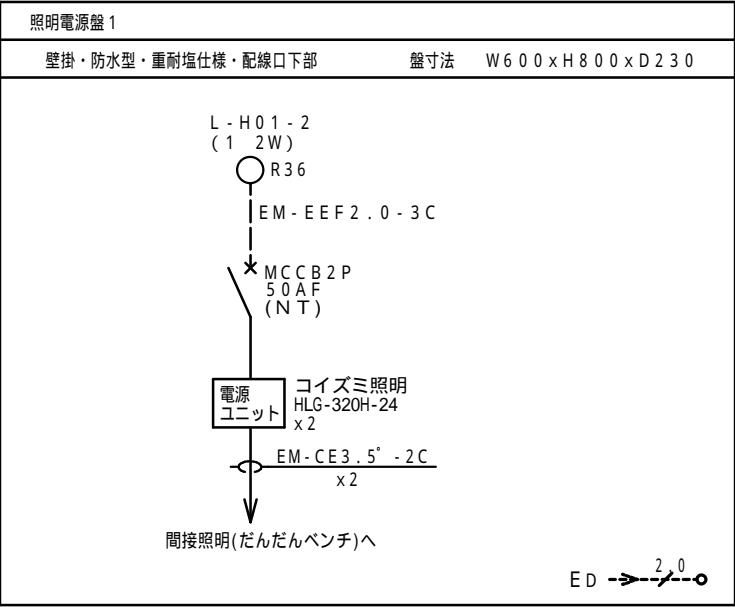
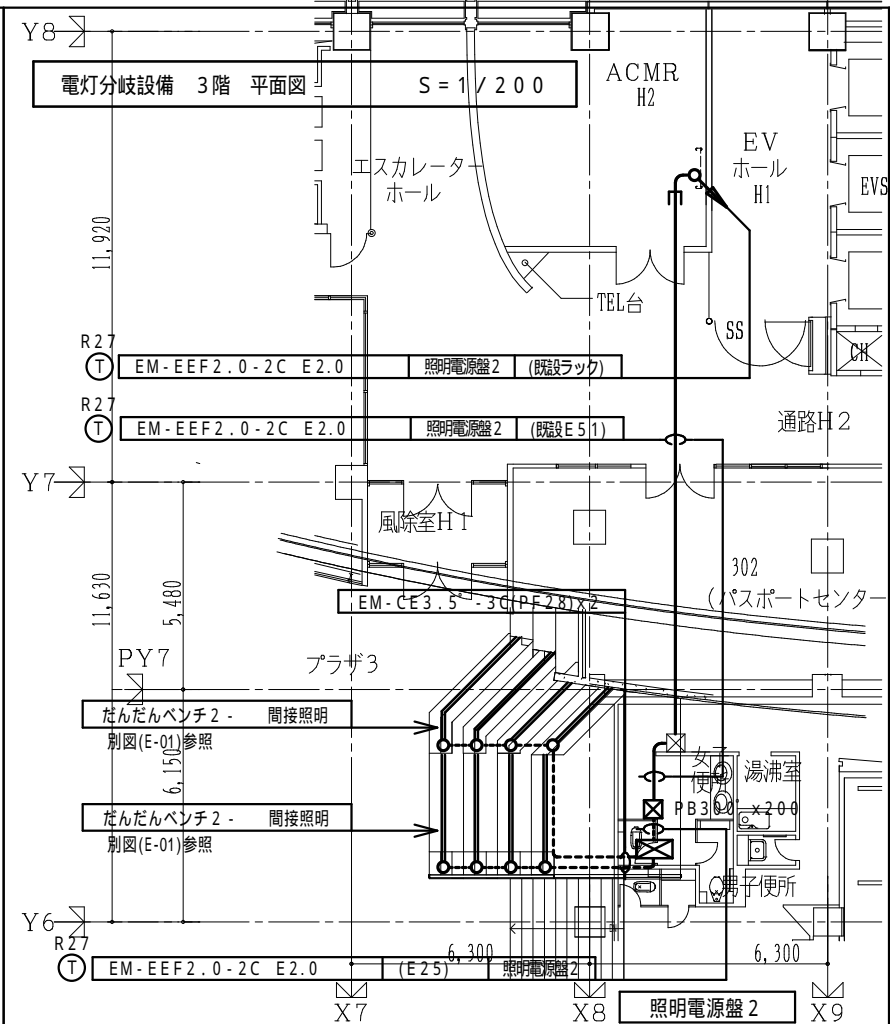
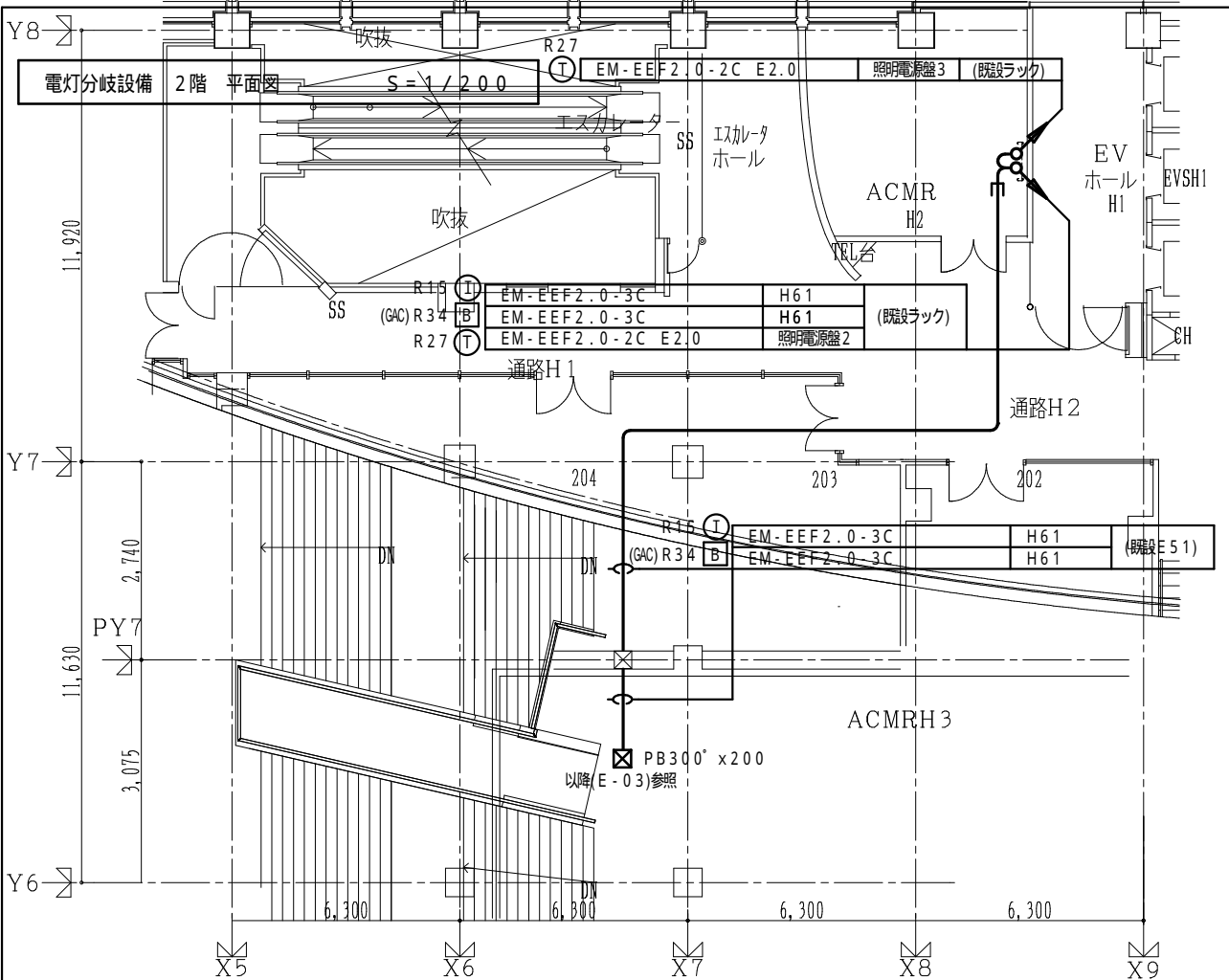
記号	名称	適用
	ブルボックス	
	位置ボックス	
	はつり（穴あけ）個所を示す	
(再)	再使用品を示す。	
	埋込配管配線	屋外の場合は、地中埋設配管配線
	露出配管配線	
	天井内ころがし配線	
	床いんべい配線	
	立上り、引下げ	
	立下げ配線保護箇所を示す。	

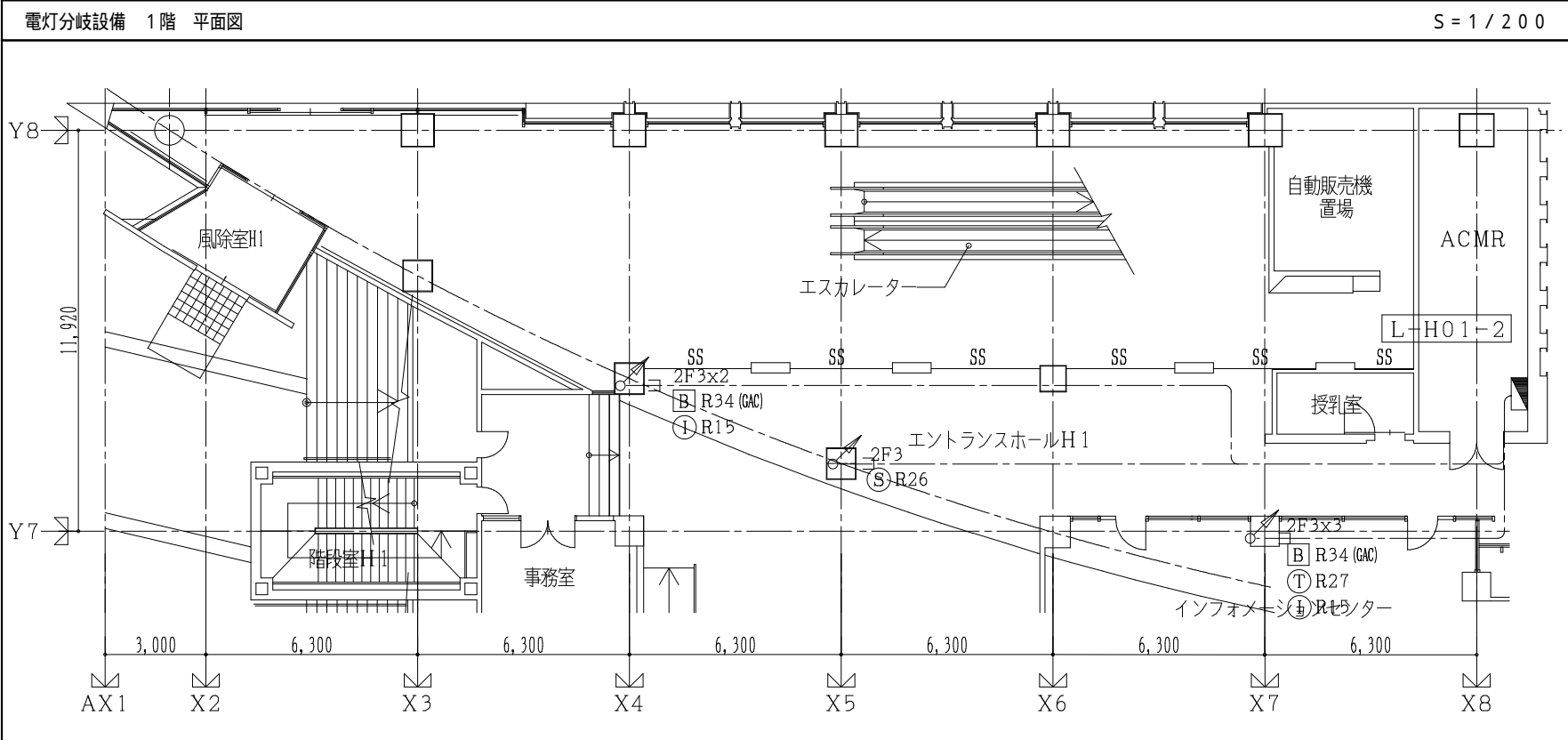
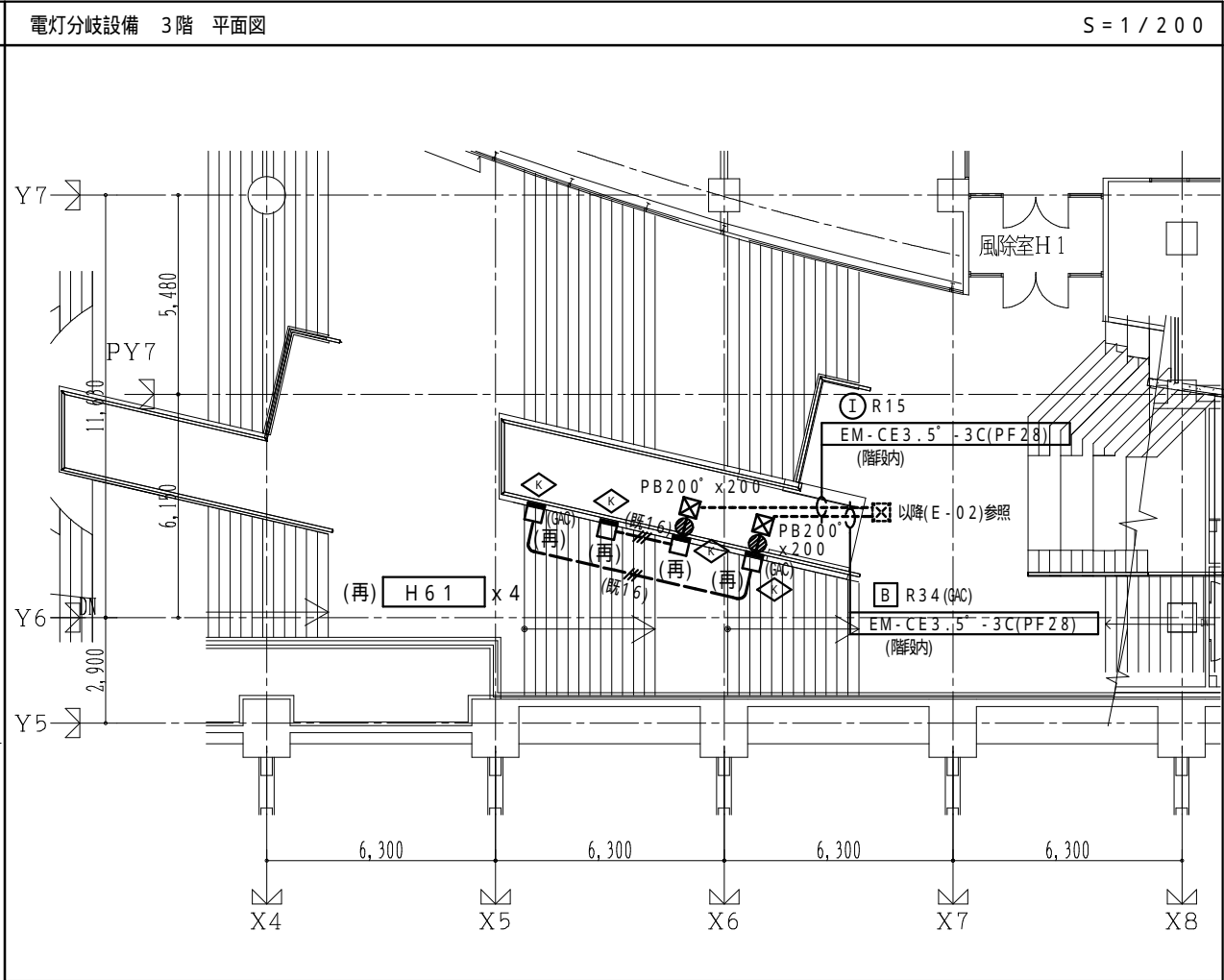
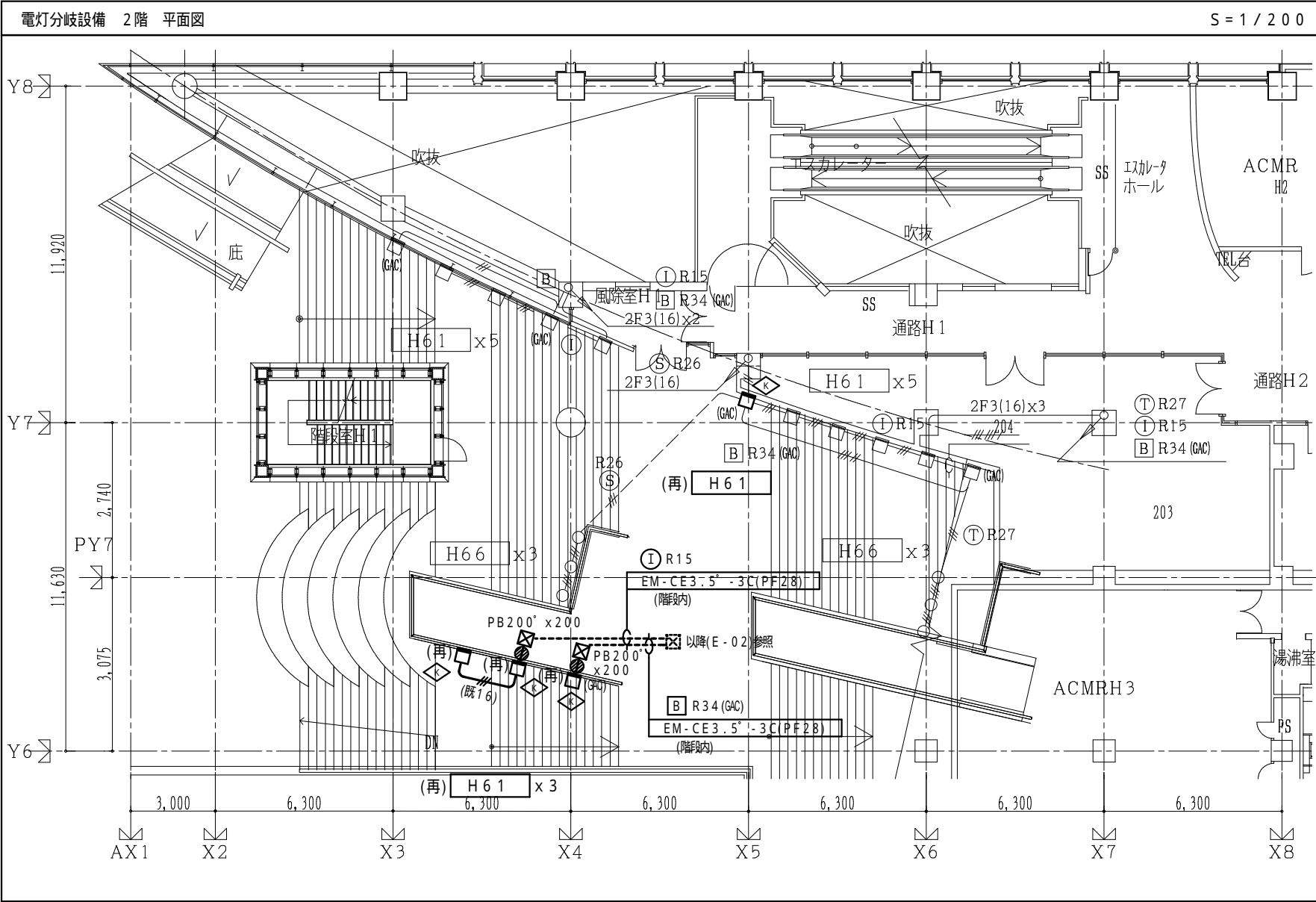
ボックス記号表

記号	適用
	既設ボックス

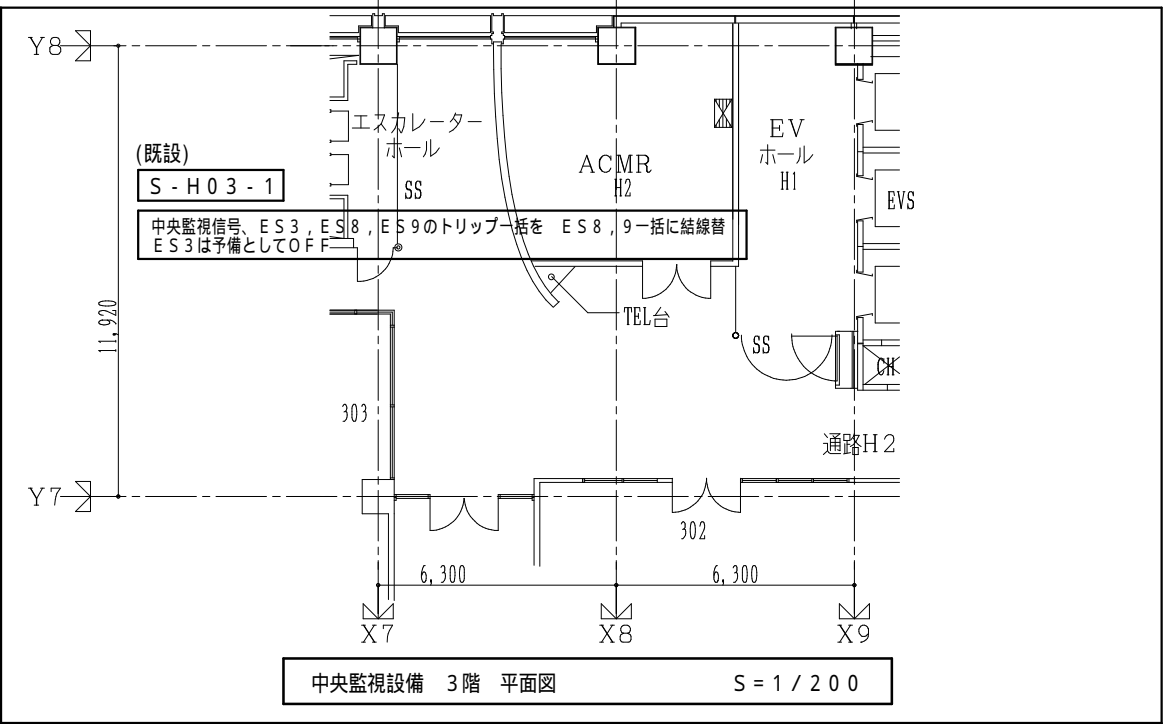
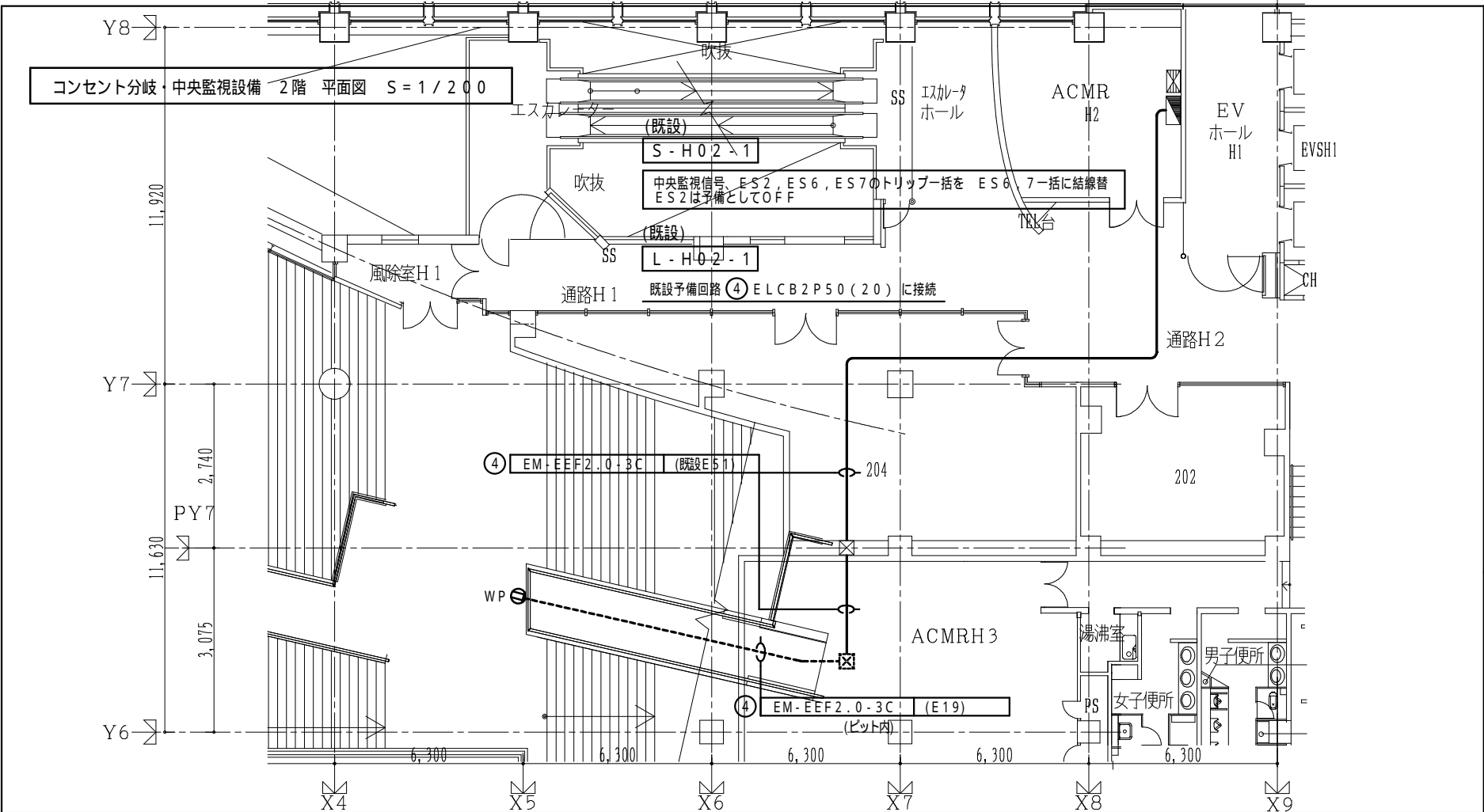
だんだんベンチ 間接照明仕様

だんだんベンチ 1 間接照明		
テーブルライトスリムDF(TLSD-28K)	2800K L=6,082mm	6
アルミ曲線チャンネル (FAC15-01TSD)	1m	3 7
だんだんベンチ 2 - 間接照明		
テーブルライトスリムDF(TLSD-28K)	2800K L=2,567mm	4
アルミ直線チャンネル(FAS00-01TSD)	1m	1 2
だんだんベンチ 2 - 間接照明		
テーブルライトスリムDF(TLSD-28K)	2800K L=3,137mm	1
"	2800K L=2,709.5mm	1
"	2800K L=2,614.5mm	1
"	2800K L=2,377mm	1
"	2800K L=809.5mm	1
"	2800K L=429.5mm	1
アルミ直線チャンネル(FAS00-01TSD)	1m	1 5



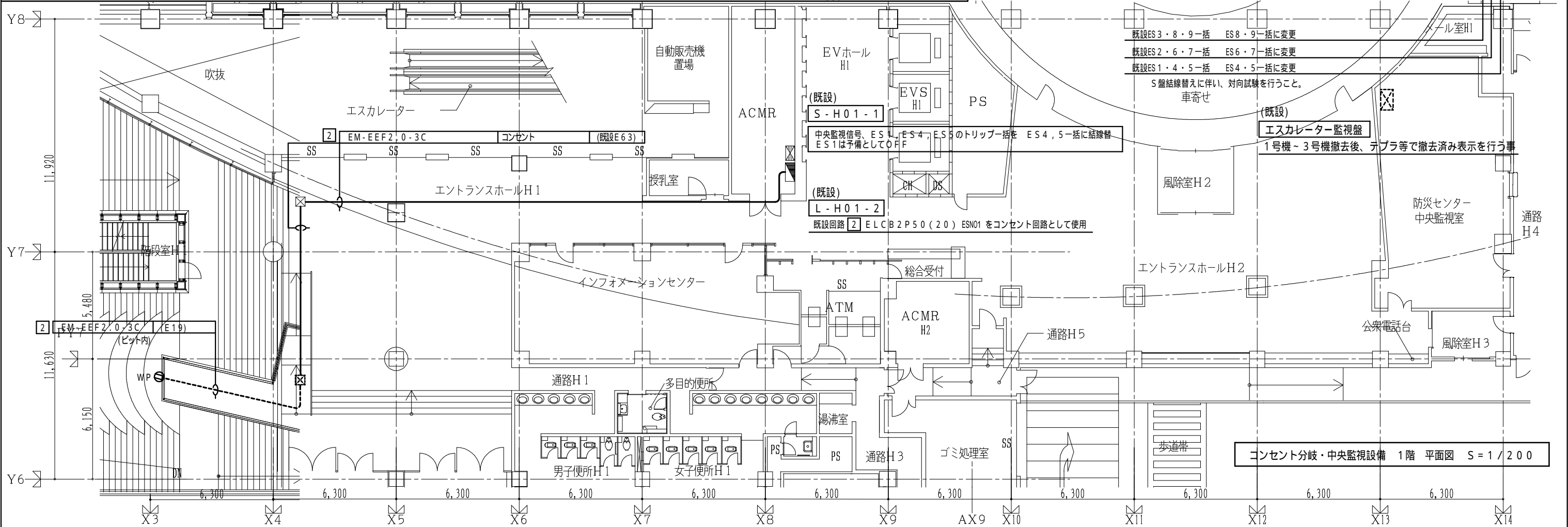


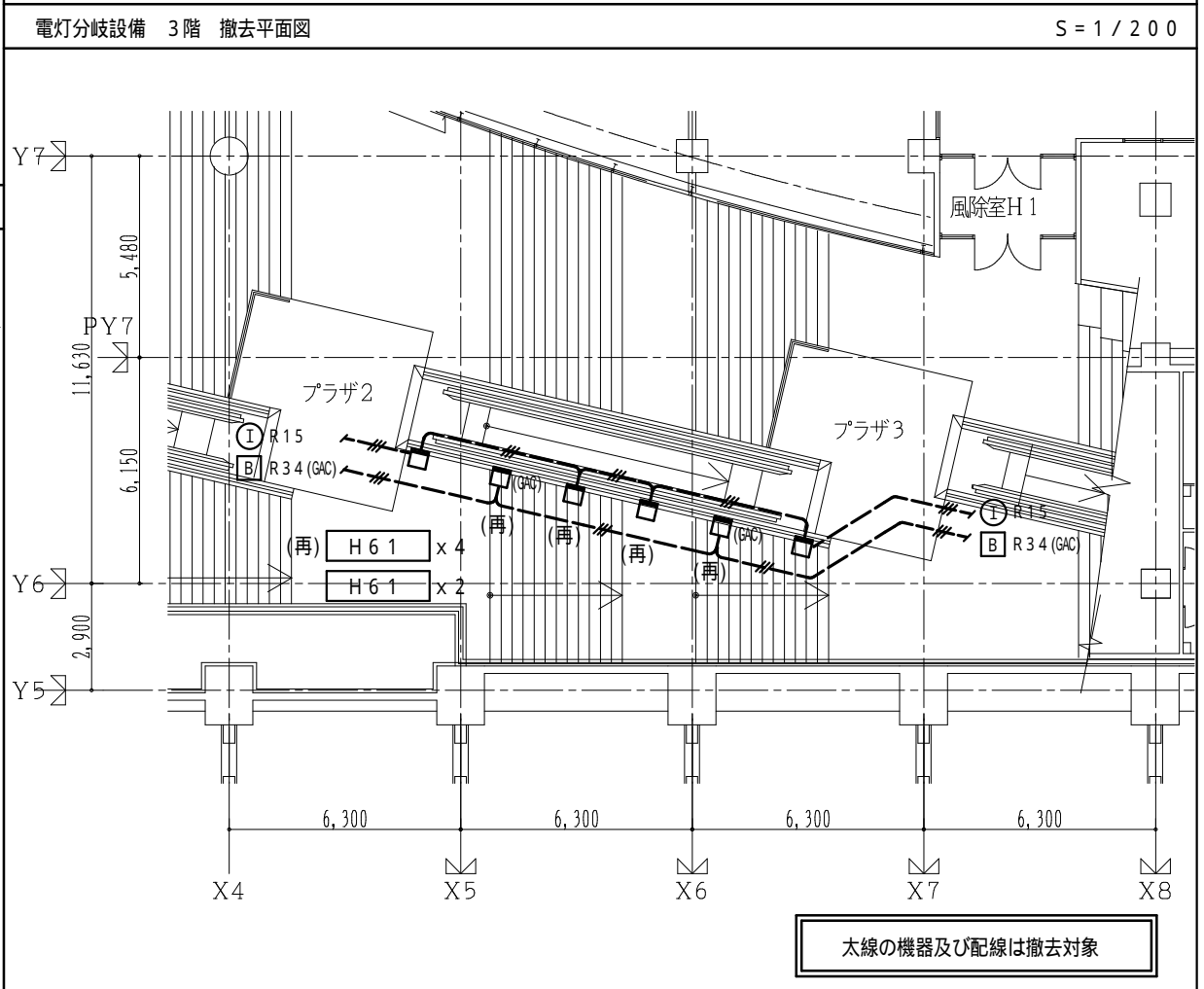
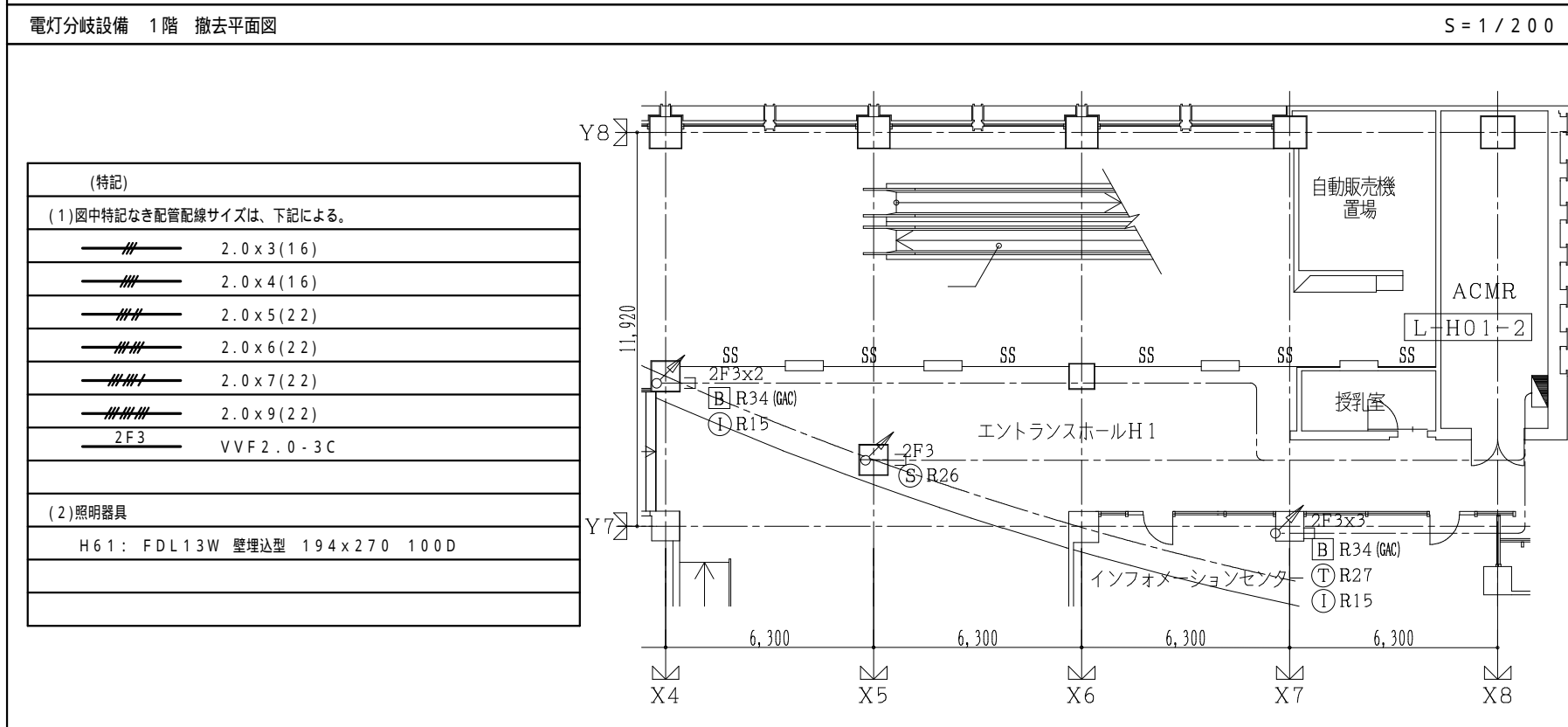
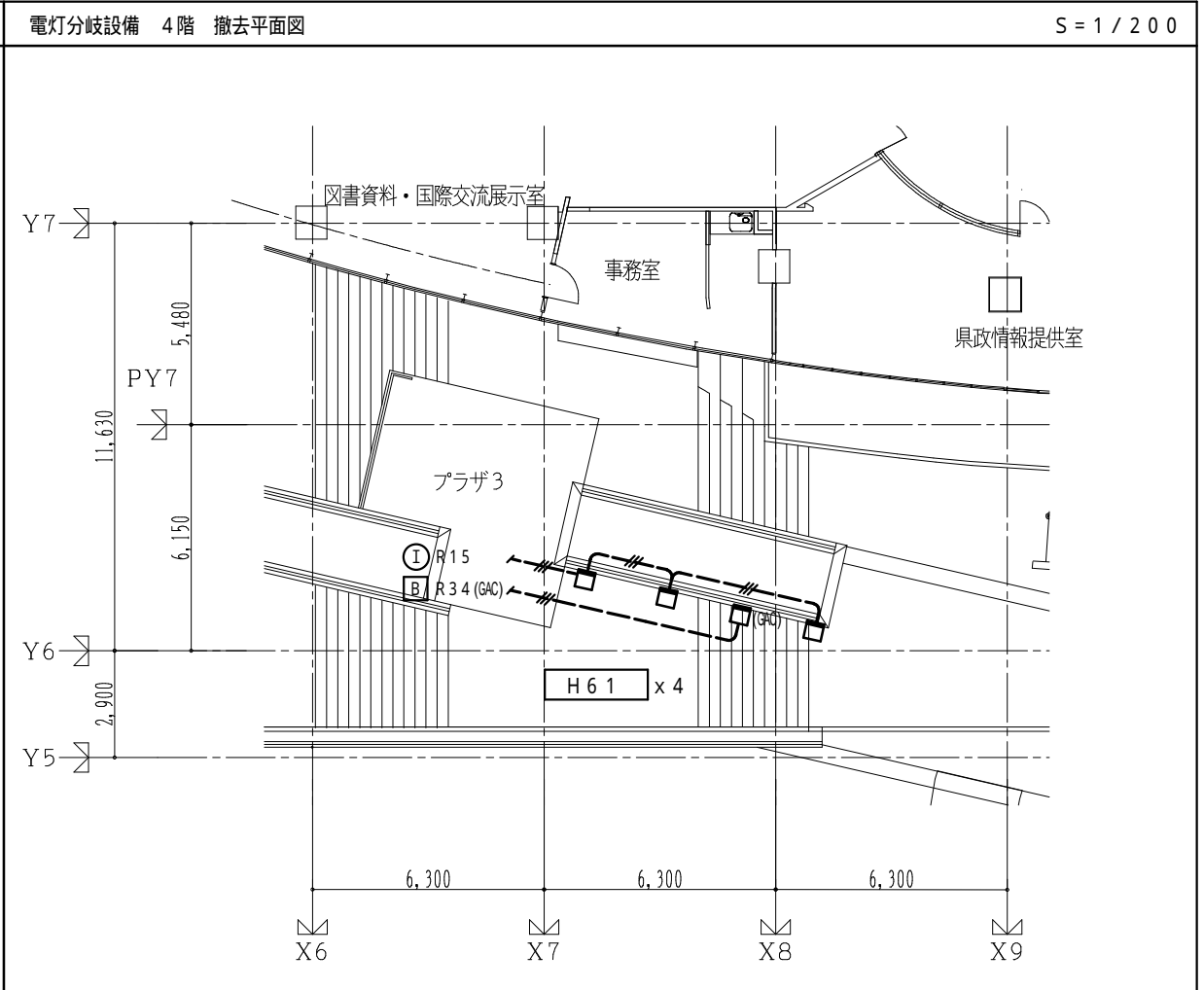
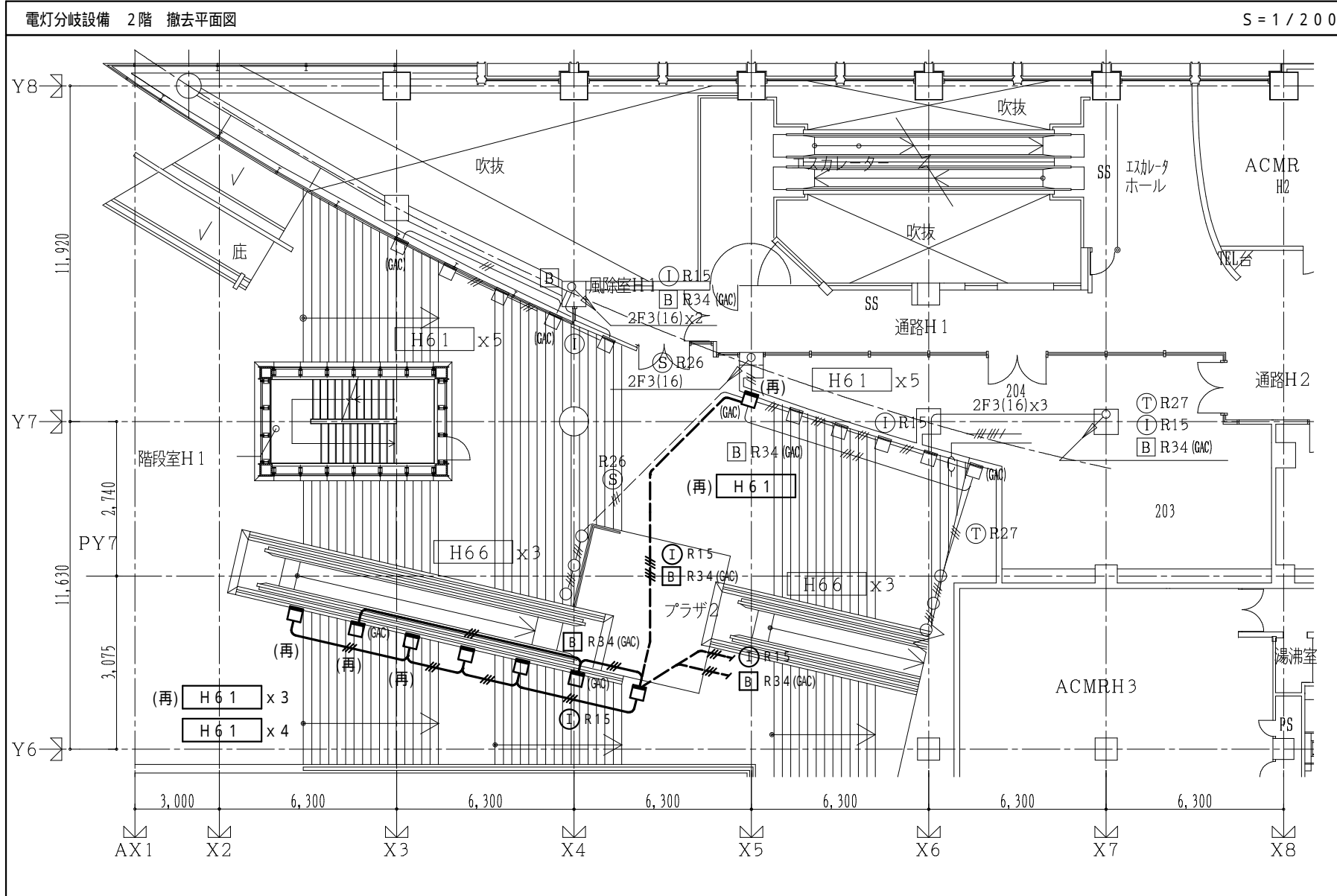
NTTファシリティーズ	株式会社 NTTファシリティーズ 一級建築士事務所 中国支店 広島県知事登録22(1)第 2404号	一級建築士登録 第 279935 号 的村 真之 建築設備士登録 第 19F1-0061LJ 号 土岐 伸治	担当 岩坂 優一	特記	工事名 山口県国際総合センター屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事	図面名 電灯分岐設備 1～3階 平面図(2) 縮尺 (A3) 1/200	図面番号 E-03 年月日 2025年12月	区分 電気
				管理番号 4JS120KJ1				



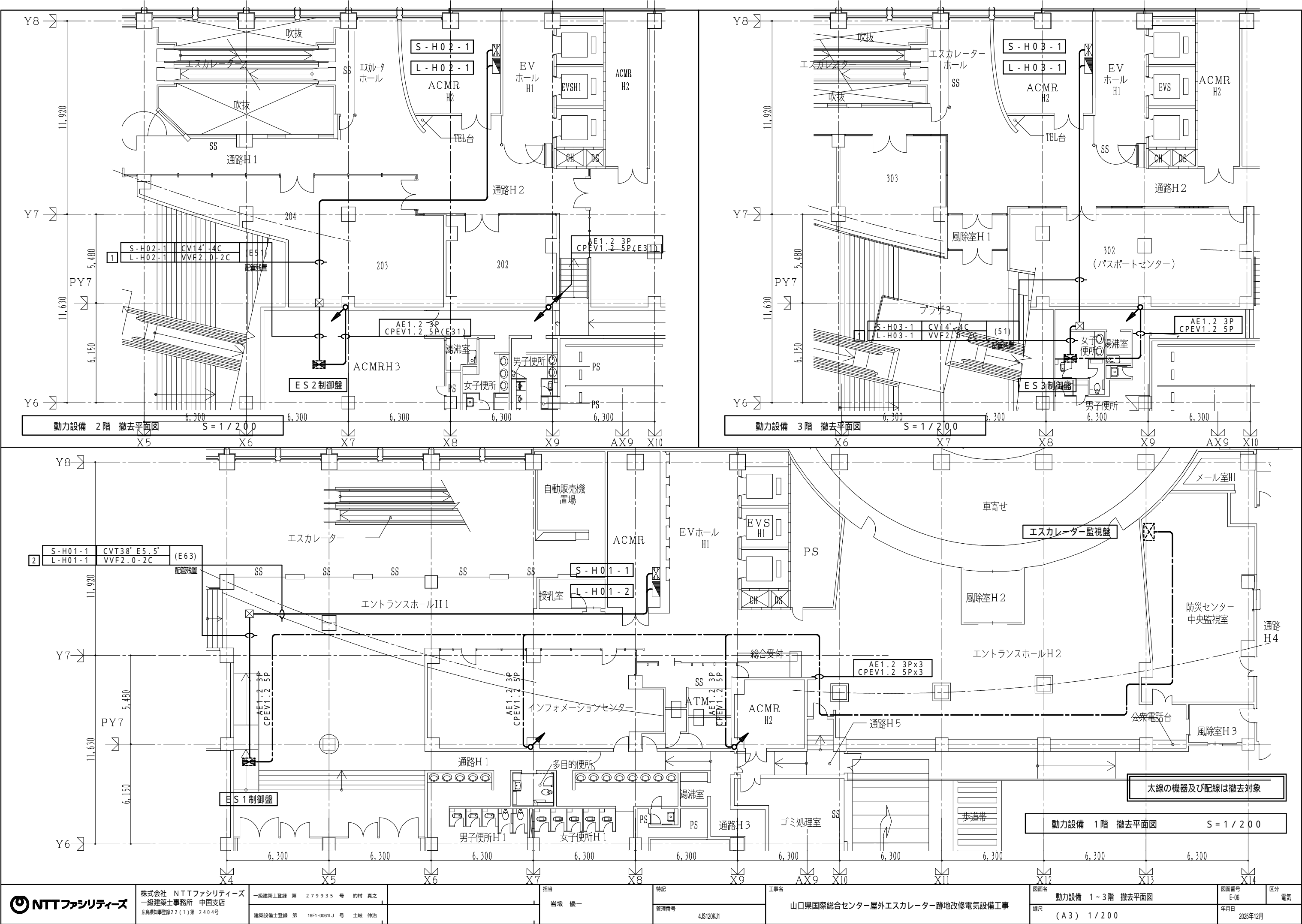
(既設)中央監視点入出力一覧表

名 称	リモート盤	動力盤	表 示			
			状態	故障	故障	警報
H棟1F エスカレーター盤 トリップ故障	RU-H01-1	S-H01-1				←
H棟2F エスカレーター盤 トリップ故障	RU-H02-1	S-H02-1				←
H棟3F エスカレーター盤 トリップ故障	RU-H02-1	S-H03-1				←









NTTファシリティーズ	株式会社 NTTファシリティーズ 一級建築士事務所 中国支店 広島県知事登録22(1)第2404号	一級建築士登録 第 279935 号 的村 真之 建築設備士登録 第 19F1-0061LJ 号 土岐 伸治	担当 岩坂 優一	特記	工事名 山口県国際総合センター屋外エスカレーター跡地改修電気設備工事	図面名 動力設備 1～3階 撤去平面図 縮尺 (A3) 1/200	図面番号 E-06 年月日 2025年12月	区分 電気
				管理番号 4JS120KJ1				